

日本造血細胞移植学会ホームページ開設のお知らせ

本学会のホームページが今年度より開設されました。今後は本学会の活動をホームページでも公開していくことになります。現在のところは症例の全国調査、ニュースレターなど会員の方々に既に配布した内容について掲載いたしましたが、ホームページに関してお問い合わせご意見などを事務局までお知らせいただければ幸いです。

ホームページURL <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/naika1/jhsct/index.html>



リンクに関するお問い合わせは tanimoto@med.nagoya-u.ac.jp

JSHCT Letter No.5

The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

日本造血細胞移植学会 September 1999

発刊発行：日本造血細胞移植学会 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 名古屋大学医学部第一内科内 TEL (052) 744-2146 FAX (052) 744-2161
発行：齋藤 英彦 編集責任：日本造血細胞移植学会ニュースレター編集委員会 印刷：株式会社セントラルコンベンションサービス 年2回発行：1999年9月

第22回 日本造血細胞移植学会総会の開催お知らせ

会長：土肥博雄(広島赤十字・原爆病院副院長)

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、来る平成11年12月16日(木)、17日(金)広島国際会議場(広島市)におきまして第22回日本造血細胞移植学会総会を開催いたします。

造血細胞移植は此方の生命からもう一方の生命への架け橋であるといえることから、テーマを『命の架け橋』として、現場で働いている多くの方が質問できる全員参加型の学会を目指します。さらに1999年末をかざるに相応しく、記念講演にシアトルから1990年ノーベル賞受賞のトーマス先生をお呼びします。他にも骨髄抑制の少ない前処置による移植、自己免疫疾患に対する移植などを特別講演としました。皆様の活発なご討論をよろしく願いたします。

『総会プログラム(予定)』

記念講演 Memorial Lecture

今世紀の骨髄移植療法を振り返って、次世紀の方向性への指針
Donnall Thomas (Professor of Medicine, Emeritus, University of Washington Member, Fred Hutchinson Cancer Research Center)
(同時通訳)共催：中外製薬株式会社)

特別講演

- 1) Nonmyeloablative stem cell transplantation Sergio Giral (Division of Medicine, Department of Hematology, Section of Blood and Marrow Transplantation, University of Texas MD Anderson Cancer Center)
(共催：三共株式会社・キリンビール株式会社)
- 2) 臍帯血移植 Kurtzberg (Duke University Medical School Department of Pediatrics)
(共催：キリンビール株式会社)
- 3) 題未定 J. Downing (St.Judo Children's Cancer Research Center)
(共催：協和発酵工業株式会社)
- 4) Autoimmune Diseasesに対するStem Cell Transplantation Daniel E. Furst (Virginia Mason Research Center)
(共催：スミスクライン・ピーチャム製薬株式会社)
- 5) 骨髄移植のモデルとしてのSCID/Huマウス 金島秀夫 (Director, Allogeneic Cell Transplantation Research SYstemix)
(共催：日本グラクソ株式会社)

教育講演

- 1) 慢性GVHDのmanagement 岡本真一郎 (共催：日本化薬株式会社)
- 2) 造血細胞移植におけるGVHD予防 小寺良尚 (共催：藤沢薬品工業株式会社)
- 3) 急性GVHDの病理 平林紀男
- 4) マイナーHA (Minor histocompatibility) antigenとGVHD 佐治博夫

5) 院内感染ハイリスク患者の感染管理 佐竹幸子

6) 造血細胞移植におけるHLA-Cの関与 森島泰雄

7) 癌のワクチン療法 谷憲三郎

8) 骨髄移植に於けるT細胞サブセットの役割 - 拒絶回避、GVHD、免疫再構成 - 楠洋一郎

ガイドライン委員会よりの報告

GVHDガイドライン 森下剛久

シンポジウム

- 1) 急性GVHDとTMA 司会：笠井正晴、浜口元洋
- 2) 同種末梢血幹細胞移植、その基礎と臨床 司会：原田実根、河野嘉文
- 3) 小児の移植に於ける告知と精神的ケア 司会：江口八千代、渡辺 新

ワークショップ(演題公募)

- 1) 再移植成績とその適応(再発後、拒絶、Mixed chimera) 司会：権藤久司、浜本和子
- 2) HLA 不適合移植 司会：加藤俊一、平岡 諒
- 3) 同種移植例の長期予後(PS, QOL) 司会：河 敬世、岩戸康治
- 4) 移植前後の無菌管理の簡略化 司会：滝沢貞子、萬 博美

造血細胞移植看護ネットワークの総会

- 公開シンポジウム - 造血細胞バンクの将来
司会：齋藤英彦、小寺良尚

平成10年度 新評議員選任について

平成10年度の新評議員は平成11年4月2日の理事・評議員選任委員会により選任され、同6月25日の理事会および各評議員の承認をいただきまして以下の14名と決定されました。

選任委員会の議事内容につきましても併せて掲載いたしましたのでご覧下さい。

新評議員(敬称略)

東 英一(三重大学・小児科)、小島勢二(名古屋大学・小児科)、工藤 亨(札幌医大・小児科)、
佐尾 浩(名鉄病院・内科)、武元良整(兵庫医大・内科)、田中淳司(北海道大学・内科)、中尾真二(金沢大学・内科)、
原 雅道(愛媛県立中央・内科)、平林紀男(名古屋第一赤・病理)、丸山文夫(藤田保健衛生大・内科)、
峯岸正好(東北大学・小児科)、宮村耕一(名古屋大学・内科)、室井一男(自治医大・輸血部)、
吉田 喬(富山県立中央・内科)

平成10年度 評議員選任委員会議事録

日 時 / 平成11年4月2日(金)

場 所 / 国際観光ホテル

出席者(敬称略): 今村雅寛、岡村 純、坂巻 壽、原 宏、堀部敬三、池田康夫(委員長)

(議事内容)

評議員選任に先立ち以下の事柄が確認された。

- 1)平成10年12月17日に開催された評議員会において決定された理事・評議員選任規約に基づき選任を行うこと。
- 2)移行措置としての平成10年度の評議員選定数は15名を目処とすることが決定されたことから、今回の選任を希望する候補者32名より15名前後を一定の基準を設けて選出すること。

個々の候補者について検討する前に選任の基本方針について討論され、以下のことが確定された。

- 1)評議員の選任にあたっては、研究業績、医療業績、コメディカルの3分野別に客観的に公平に選任することの他、専門性、地域性などの学会運営上の必要性を考慮すると規約に従って選任する。
- 2)本年度の候補者32名の内訳は基礎1名、小児科6名、内科25名、コメディカル0名であり、現在の評議員40名の構成は基礎1名、小児科11名、内科24名、コメディカル3名、その他1名である。
- 3)まず専門領域からの討議を行った。今回コメディカルからの選任希望者がなく、基礎については1名の候補者があったことより、現在の評議員構成を鑑みて、基礎からの候補者について優先的に資格審査を行った。その結果、本候補者は十分な資格を有すると判断された。
- 4)また本学会の重要な機能の一つに移植症例のregistryがあり、選任規約においても医療上の貢献(医療業績)を重視することが掲げられていることから、候補者の施設にまだ評議員がおらず、かつその施設での移植実績(おおむね100症例を目処とした)が十分にあり、地域の中核をなしている場合には、その移植チームの責任者について優先的に資格審査を行うこととした。その結果5施設より5名(いずれも内科)の候補者が評議員として選任された。
- 5)次いで、内科と小児科との構成比について討議され、地域性を考慮した上で小児科4名の資格審査を行った結果、4名が評議員として選任された。

上記の10名の選任ののちに、残りの候補者22名については客観的な業績評価を行い、その上位4名を評議員として選任した。

平成11年度 評議員応募申請について

平成11年度の本学会評議員の応募申請要項をお知らせいたします。なお、選任委員会の協議を経て、本年度総会の理事会・評議員会で承認され総会で決定されますと、平成12年4月1日より本学会の評議員となります。

平成11年度 日本造血細胞移植学会 評議員応募申請要項

以下の事項を順にA4用紙に記載し、平成11年10月30日(土)までに日本造血細胞移植学会事務局宛て書留にて郵送して下さい。

記

このたび平成11年度日本造血細胞移植学会評議員に応募します。

- 1 氏名(ふりがな)印
- 2 生年月日(平成12年4月1日現在の年齢)
- 3 所属施設 / 所属部署 / 職名 / 住所 / 電話FAX番号
- 4 連絡先(3と異なる場合に記載)
- 5 学会(骨髓移植研究会を含む)入会年(5年以上正会員で会費完納が条件です。入会年、会費納入状況等のご不明の場合には事務局までお申し出下さい)。
- 6 学歴 / 職歴(造血細胞移植との関連が判るように用紙1枚以内で)
- 7 資格(医師 看護婦(士)等)
- 8 所属学会 / 団体(役職)
- 9 専門分野(関連の深い分野から3分野以内を具体的に記載。医師の場合は内科 / 小児科 / 基礎系が判るように: 30字以内)
- 10 医療業績(できるかぎり箇条書きにして400字以内で記載。造血幹細胞移植経験数も含めて下さい)
- 11 研究業績(造血細胞移植に関連のある事項を400字以内で記載して下さい)
- 12 学会発表
【過去10年間の筆頭演者としての発表を最近のものから順に演者(3名までに省略可)演題名、学会名、発表年、地名、発表形式(シンポジウム、口演、ポスターなど)を記載して下さい。】
- 13 論文
【原著 / 総説 / その他に分けて最近のものから順に著者名(全員)、題名、発表誌、号、最初と最後の頁、年を記載して下さい】
- 14 その他
(学会評議員に応募するにあたり特に主張されたいことがあれば200字以内で記載して下さい。)

送付先 / 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学医学部 第1内科 谷本光音 宛
(日本造血細胞移植学会 事務局)